

1・学校教育目標

- 1. **自立** 社会の中で自立しようとする意欲ある生徒
- 2. **コミュニケーション** 人との関係を築く力のある生徒
- 3. **開智** 進んで学び広くものを見ようとする生徒
- 4. **健康** 心身ともに健康であうとする活力ある生徒

コミュニティスクール
六小・七小・三中
3校のめあて

- 1. あいさつができる
- 2. 話を聞くことができる
- 3. 自分のことは自分でできる
- 4. 人のために仕事ができる
- 5. 社会の約束を守る
- 6. 思いやりの心を持つ
- 7. 意見を持つ
- 8. 美しい物を大切に
- 9. 学ぼうとする努力ができる

★令和5年度重点目標  「自立と貢献」

目指す生徒像

- 1. あいさつを交わし合える生徒
- 2. 清掃で学校をきれいにできる生徒
- 3. 他に貢献できる生徒
- 4. 自立する生徒
- 5. 自分に期待する生徒
- 6. 必要とされる生徒

目指す学校像

- 1. 生徒も職員も自立する学校
- 2. 誰一人取り残さない学校
- 3. 他に貢献する学校
- 4. 安全できれいな学校
- 5. 信頼される学校
- 6. 必要とされる学校

目指す教師像

- 1. あいさつを交わし合える教師
- 2. 生徒と共に清掃できる教師
- 3. 他に貢献できる教師
- 4. 生徒を自立させられる教師
- 5. 自らを成長させる教師
- 6. 生徒と生徒を繋ぐことができる教師

2. 学校経営の重点 「自立と貢献」を目指して、学級経営と授業で生徒を育てる

(1) 自立：自分たちで自分たちの課題を解決する学級を目指す

- ① 生徒の自治によって学級運営ができる支援をする。
- ② 生徒が成長できる授業を展開する。
- ③ 生徒が主役となる、魅力ある学校・学年行事の充実に努める。
- ④ 自主的な生徒会活動・委員会活動を支援する。

(2) コミュニケーション：伝える力を育成する

- ① 言語活動の充実を図った授業を展開する。
- ② 授業の中で学び合い、教え合いの場面を設定する。
- ③ 道徳科の授業を充実させる。
- ④ 体験的学習活動を進展させる。

(3) 開智：学ぶ意欲と学ぶ習慣を身に着けた生徒の育成

- ① 進んで学べる環境をつくる。
- ② 個に応じた指導を充実させる。
- ③ 家庭学習の習慣化を図る。
- ④ 少人数指導を充実させる。

(4) 健康：心と体の健康づくりを推進する

- ① 日常的な教育相談の意識を取り入れ生徒理解に努める。
- ② 体育的行事の充実。
- ③ 安全教育の充実。
- ④ 食育活動の推進。

(5) 積極的な生徒指導を推進する

- ① 学級経営と授業で生徒を育てる。授業で生徒と生徒を結びつける。
- ② 生徒による自治的な学級運営を目指す。
- ③ 生徒会活動の充実
- ④ 長欠・不適応生徒への組織的な対応。支援室の設置と組織的運用。

(6) 特別支援教育の理解と支援体制の充実

- ① 特別支援教育に関する職員間の情報共有を促進する。(積極的な関り)
- ② 積極的な交流の推進。
- ③ 行事参加への協力態勢づくりを進める。
- ④ 困難を抱えた生徒・保護者理解の共有と合理的配慮への協力を推進する。

(7) 信頼され、地域に根ざした学校づくりを推進する

- ① 地域に開かれた学校づくりを進める。
 - ・コミュニティスクール導入元年。校内組織の構築。
 - ・公開授業・組織的な情報発信
 - ・地域行事への参加の奨励
 - ・地域との関わりの推進(学校からのニーズと、学校ができることの発信)
 - ・関係諸機関との連携
- ② 研修と実践の工夫で教師の授業力・生徒理解力を高める。
 - ・新学習指導要領に根ざした授業展開の実践。
 - ・校内研究テーマの共有。校内研修や授業相互参観の推進。
 - ・初任者や若手教員の育成推進
 - ・不祥事防止研修の充実
- ③ 安心安全できれいな学校づくりを進める。
 - ・効果的な防災訓練、避難訓練の実施
 - ・安全教育の充実(交通安全、不審者対策)
 - ・校舎内外の美化、環境整備
 - ・安心安全な給食の実施

(1) 生徒指導の充実

- ① 「あいさつ」「時間」「清掃」「歌声」を生活面の4つの柱とする。
- ② 生徒が自らの手で学校生活をより良いものにしていこうという活動を支援する。
 - ・生徒会活動、委員会活動、部活動の活性化
 - ・ボランティア活動の推進(地域連携、コミ・スク)
- ③ 上級生が下級生をリードする文化を意図的に作り、自信を持たせる。
- ④ 心の教育を推進する。
 - ・体験的な活動や道徳科授業の充実
 - ・応援する心の育成
- ⑤ 教育相談活動の充実を図る(生徒との信頼関係の構築、情報共有、時間設定、相談窓口の周知)

(2) 学ぶ意欲や学ぶ習慣の育成

- ① 授業規律の構築(あいさつ、黙想を全学級・全教科で行う)
- ② 生徒と生徒をつなぐ授業づくりを目指しての授業改善を進める。
 - ・言語活動の充実を図るための授業実践
 - ・小グループ活動を積極的に取り入れた授業づくりを進める。
 - ・生徒アンケートの結果を授業改善に生かす。
- ③ 家庭学習の習慣化を図る。授業と家庭学習を繋ぐ工夫。

(3) 生徒に意欲や希望を持たせる学校づくり

- ① 「明るく楽しい学校生活を送っている」という生徒アンケートの肯定的な回答で90%をめざす。
- ② いじめアンケートのやり方を工夫し、早期発見・早期解消に努める。
- ③ 長欠・不登校生徒への組織的な取り組みを推進する。(適応指導教室のあり方)

(4) 特別支援教育の充実

- ① 特別支援学級の生徒や特別な支援・配慮を必要とする生徒の情報を共有し、全職員で係わっていく。(特別支援教育コーディネーターの主任会への参加等)
- ② ニーズに応じた研修会を実施する。(含、エピペン・AEDの使用法など)
- ③ 特別支援部会の設置で組織的対応と情報共有を図り相互理解を進める。
- ④ 菜の花学級内での交流を促進する。(相互理解のための時間設定)

3. 学校運営上の課題

- (1) 働き方改革の推進
- (2) 勤務時間の適正化と仕事量のバランスへの配慮。
- (3) 学校経営を新学習指導要領へ移行し終え、充実へ。
- (4) 組織的な新任者・若年層教員の育成。
- (5) 新ガイドラインに基づいた、部活動のあり方と地域への移行。
- (6) 学校ホームページ充実のための組織的な運営と分担。

4. 共通理解事項

- (1) 報告、連絡、相談の徹底と迅速化。(特に、けが、事故、生徒指導上の問題)
- (2) 首から上の事故は病院に連れて行く。
- (3) 生命・安全安心・人権・健康に関することは全てに優先させる。
- (4) 継続的な指導記録と早期対応。(怪我や事故、生徒指導上の問題、不登校、不応)
- (5) 悩みや課題を共有し、お互いに学び成長できる職員集団を目指す。
- (6) 一人で課題を抱えるのではなく、「チーム三中」として組織的な対応を進める。
- (7) 不祥事根絶に全職員で取り組む。